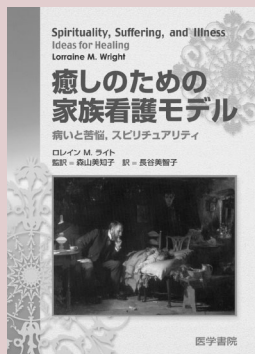


（患者と家族の苦悩の軽減と癒しに役立つ価値ある1冊）



癒しのための家族看護モデル 病いと苦悩, スピリチュアリティ

ロレイン M. ライト 著 森山美知子 監訳 A5判・184 ページ
定価 2730 円(本体 2600 円+税 5 %) ISBN 4-260-00094-2 医学書院 2005

評者

大沼小雪

日本ダンスセラピー協会理事
東邦大学医学部看護学科
非常勤講師(看護師)

本書は、カルガリー家族看護モデルを開発したロレイン M. ライトの最新作で、これまでの実践、理論、研究結果に基づく「スピリチュアリティ」「苦悩」「ビリーフ」のトリニティ(三位一体)・モデルを構築したものであり、彼女の活動の集大成と言われている。

著者のライトは、自分の考えの基礎となった理論と世界観は、ポストモダニズム、システム理論、認知生物学であると述べており、幅広い分野の研究と考えから理論構築が成り立っているのがわかる。

人のもつ力を信じる治療的会話の醍醐味

少しばかり看護教育を離れて、病で苦しむ人、苦悩を抱えている人々への統合的・多面的アプローチを実践している評者にとって、本書には多くの共通点も見出したが、苦悩を表出させ、癒しへと導くその治療的会話は青天の霹靂とも呼べるものであった。非常に熟練した者にしかできない、深い洞察と相手の持つ力を引き出す能力に感服した。

このようなケア提供者、セラピストに出会えた人は幸せだろうと思う。短期間で変化させるところは認知療法を主としたブリーフセラピー的であるし、語らせるところはナラティブセラピー的でもあり、積極的傾聴はロジャーズ的であるし、意味を見出す過程はロゴセラピー的である。

良い関わりには多くの共通点があり、さまざまな

要素が含まれていてもおかしくないが、最終的には「人は本質的に生きる勇気と強さを持っている」(監訳者まえがきより)という人間観を持つその人自身の存在が癒しの原点であろう。

事例の丹念な考察を通して示される介入の過程

本書の優れた点は、苦悩とスピリチュアリティを結びつけた点である。苦悩からスピリチュアルな次元に導くことがどれほど大変か、臨床にいる看護師ならば皆体験していることであろう。「苦悩の軽減は看護実践の中核・本質・真髄であり、実際、医療従事者の仕事の主な部分を占めている」(p.26)、しかしながら、「現実には必ずしもそうみなされていない」(同)と述べられているが、実際、非常に難しい。

本書は、実に難しい家族の苦悩への介入について、どのようにしてスピリチュアルな次元に導いていくのか、癒しとは何か、その過程を事例を通し、丹念な考察を加えて説明している。

苦悩とスピリチュアリティを語るとき、評者は、「希望」と「創造」という言葉をどうしても用いたくなるが、本書においては「希望」について「私たちは、患者が自分にとって意味のある、希望といえるものを見つける手助けをする必要がある」(p.146)と述べられている。苦悩の中にあっては、1人では希望は見つけられない。しかし、日常の業務に追われている看護師は、希望を見つける手助けができない。本書は患者や家族の苦悩を軽減し癒しに導きたいと考える看護師にとって、価値ある1冊だと思われる。

■ご購入は、最寄の医書専門店または医学書院販売部 電話(03)3817-5657(直通)まで。
ホームページ(<http://www.igaku-shoin.co.jp>)からもお申し込みいただけます。